

2026年3月3日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団  
共催（公財）日本スポーツ協会  
（公財）日本オリンピック委員会

## 「2025年度 ミズノ スポーツメントール賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では、（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本オリンピック委員会と共催で、1990年度から「ミズノ スポーツメントール賞」を創設しており、2025年度で36回目となりました。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に創設したものです。

3月3日（火）、グランドプリンスホテル高輪で選考委員会を開催し、以下の通り、受賞者を決定いたしました。

なお、この「ミズノ スポーツメントール賞」の表彰式は、4月21日（火）にグランドプリンスホテル新高輪で行う予定です。

### 【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】（トロフィー、副賞各200万円）

- ・ジェyson ニブレット 氏（日本自転車競技連盟／自転車トラック短距離種目ヘッドコーチ）
- ・中島 幸則 氏（日本パラスポーツ協会／スポーツ全般 JPSA 公認中級パラスポーツ指導員、JPSA 公認パラスポーツトレーナー、JSP0 公認アスレティックトレーナー）

### 【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】（トロフィー、副賞各100万円）

- ・形本 静夫 氏（日本バイアスロン連盟／日本バイアスロン連盟 科学部会長）
- ・民谷 千寿子 氏（岐阜県スポーツ協会／バドミントン JSP0 公認バドミントンコーチ 2）

### 【ミズノ スポーツメントール賞】（トロフィー、副賞各50万円）

- ・吉田 真希子 氏（日本陸上競技連盟／東邦銀行）
- ・荒木 達雄 氏（日本体操協会／日本体操協会国際事業委員長 アジア体操連合 理事）
- ・前原 正浩 氏（日本卓球協会／日本卓球協会名誉副会長  
JOC ナショナルコーチアカデミー・シニアアドバイザー）
- ・塚田 真希 氏（全日本柔道連盟／女子代表監督）
- ・大村 啓逸 氏（宮城県スポーツ協会／剣道 JSP0 公認スポーツコーチングリーダー）
- ・内野 浩 氏（茨城県スポーツ協会／サッカー  
JSP0 公認サッカーコーチ 1 [JFA 公認C級コーチ]）
- ・藤谷 博人 氏（神奈川県スポーツ協会／スポーツ全般 JSP0 公認スポーツドクター）
- ・兼田 忠啓 氏（新潟県スポーツ協会／ソフトテニス JSP0 公認ソフトテニスコーチ 2）
- ・比嘉 敏彦 氏（沖縄県スポーツ協会／ウエイトリフティング  
JSP0 公認ウエイトリフティングコーチ 4）

詳細は別記の通りです。

## 記

名 称 : 2025年度 ミズノ スポーツメントール賞

目 的 : 我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に創設

選考基準 : 中・長期にわたり継続して選手の育成に努め、優秀な選手を輩出している監督・コーチ等の競技スポーツ指導者、及び、ドクター・トレーナー等として医・科学面から競技スポーツをサポートしているスタッフ  
並びに、地域において社会体育、市民スポーツの普及振興に貢献している、或いは中学校、高等学校等の競技スポーツで顕著な実績をあげているスポーツ指導者ともに現在も引き続き活動している個人またはグループ

対 象 者 : 国内外を問わず、我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

対 象 期 間 : 2025年1月1日～同年12月31日

選考委員 : 委員長 橋本 聖子 ((公財)日本オリンピック委員会 会長)  
委員 三宮 恵利子 ((公財)日本スポーツ協会 副会長)  
" 山本 浩 ((公財)日本スポーツ協会 常務理事)  
" 上治 丈太郎 ((公財)日本スポーツ協会 評議員)  
" 小谷 実可子 ((公財)日本オリンピック委員会 常務理事)  
" 井上 康生 ((公財)日本オリンピック委員会 常務理事)  
" 谷本 歩実 ((公財)日本オリンピック委員会 理事)  
" 水野 英人 ((公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長)

※順不同

受賞者及び選考理由 :

### 【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】

●ジェyson ニブレット (Jason Niblett) 氏 43歳 (1983. 2. 18生)

(日本自転車競技連盟/自転車トラック短距離種目 ヘッドコーチ)

約10年にわたり日本自転車競技連盟のトラック短距離種目において指導者を担い、東京オリンピック後にはヘッドコーチとして日本代表チームを牽引。特に2024年世界選手権大会では、日本発祥であるケイリン種目において、男子では37年ぶりとなる金メダル、女子では史上初の金メダル獲得という歴史的快挙に大きく貢献した。さらに同大会では、チームスプリント(男子)でも銅メダルを獲得し、トラック短距離陣を世界トップクラスへ押し上げる実績を残している。続く2025年には、女子ケイリン種目を2年連続優勝へ導くなど、継続的な成果を挙げている。

【指導(サポート)した主な選手、チーム】

- ・佐藤 水菜 '25 2025 世界選手権大会 1位
- ・佐藤 水菜 '24 2024 世界選手権大会 1位
- ・山崎 賢人'24 2024 世界選手権大会 1位
- ・長迫 吉拓/太田 海也/小原 佑太  
'24 2024 世界選手権大会 チームスプリント 3位
- ・中野 慎詞'24 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ) 4位

●中島 幸則（なかじま ゆきのり）氏 63歳（1962. 8. 21生）

（日本パラスポーツ協会／スポーツ全般 JPSA 公認中級パラスポーツ指導員、  
JPSA 公認パラスポーツトレーナー、JSP0 公認アスレティックトレーナー）

39年にわたり競技スポーツの現場で選手の成長と安全確保を最優先に、卓越したスポーツ医・科学サポートを実践している。その活動はユース世代から日本代表選手、さらには大学駅伝競走部まで、幅広い年代・競技を対象に、選手が最大限の力を発揮できる体制づくりに尽力してきた。

特にデフスポーツ分野では、全日本ろうあ連盟へ医科学委員会設置の必要性を提起し、2009年のデフリンピックでは複数の医師・看護師・トレーナーが連携する包括的サポート体制が初めて実現した。また、学生教育と連動してトレーナーを育成し、各競技団体に配置する仕組みを整え、デフスポーツ全体の医・科学サポートの基盤構築に大きく貢献した。

さらに、中央学院大学駅伝部のメディカルスタッフとして障害予防とコンディショニング管理に携わり大学スポーツの発展に寄与したほか、サッカーU16日本代表など育成世代支援にも深く関わり、将来の日本スポーツを担う若手の成長を支えてきた。その他、聴覚・視覚障害学生の教育支援にも力を注ぎ、誰もがスポーツに取り組める環境づくりにも大きく寄与している。

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】

●形本 静夫（かたもと しずお）氏 78歳（1947. 7. 24生）

（日本バイアスロン連盟／日本バイアスロン連盟 科学部会長）

1998年長野冬季五輪に向け、バイアスロン・ナショナルチームのコーチング及びトレーニングをトータルにデレクションし、高橋涼子選手を女子インディビジュアル6位入賞に導いた。この成績は現在でも日本の最高順位。1998年から2016年までは、日本自転車競技連盟医科学部会長として下記の実績を上げ、日本の国際競技力の向上や自転車競技の普及に大きく貢献した。

2021年から、日本バイアスロン連盟科学部会長に就任し、選手・コーチを対象とした「情報・科学の部屋」の定期開催や現地視察を通して、バイアスロンに科学的ナレッジを浸透させ、2025ハルビン冬季アジア大会で男子リレー種目金メダル獲得に結実させた。

【指導（サポート）した主な選手】

- ・小島 清雅/立崎 幹人/山本 大晴/枋木 司  
'25 第9回アジア冬季競技大会（2025/ハルビン）男子30kmリレー1位
- ・永井 清史'08 第29回オリンピック競技大会（2008/北京）男子ケイリン 3位
- ・長塚 智広/伏見 俊昭/井上 昌己  
'04 第28回オリンピック競技大会（2004/アテネ）  
男子チームスプリント 2位
- ・高橋 涼子'98 第18回オリンピック冬季競技大会（1998/長野）  
女子インディビジュアル 6位

●民谷 千寿子（たみや ちずこ）氏 75歳（1950. 12. 27生）

（岐阜県スポーツ協会／バドミントン JSP0 公認バドミントンコーチ2）

1984年の岐阜県家庭婦人バドミントン連盟（現岐阜県レディースバドミントン連盟）の設立期から中心的役割を担い、42年にわたり一貫してバドミントンの普及と指導に尽力してきた。女性が年齢を問わずスポーツを楽しめる環境づくりを目標に講習会の開催や組織基盤の整備を進め、その結果、同連盟を全国有数の団体へと成長させた。現在は日本レディースバドミントン連盟会長として全国的な発展を牽引している。

また、JSP0 公認バドミントンコーチ2として専門的指導力を発揮し、岐阜市スポーツ教室では26年間講師を務め、成人から高齢者まで延べ数千人に生涯スポーツとしてのバドミントンの魅力を伝えてきた。理事長を務めるNPO法人を通じ、山県市内の中学校のバドミントン部外部コーチ

として 25 年以上指導を継続し、全国大会出場選手や将来の指導者を多数輩出するなど、地域競技力向上に大きく貢献している。

さらに、岐阜県バドミントン協会副会長、日本バドミントン協会理事・監事、事業本部競技審判副部長など要職を歴任し、国内競技力・審判育成の強化にも寄与し、地域から全国まで活動の幅を広げつつ、基盤である地域指導を途切れさせることなく継続してきた献身的な取り組みは極めて大きい。

### 【ミズノ スポーツメントール賞】

#### ●吉田 真希子（よしだ まきこ）氏 49歳（1976. 7. 16生）

（日本陸上競技連盟／東邦銀行）

東京 2025 世界陸上競技選手権大会において、混合 4×400m リレーが史上初の入賞を果たした。その際に女子選手として出場した 2 名の直接的な指導者であり、日ごろからの強化活動および世界選手権でのナショナルスタッフとして、選手の最大限のパフォーマンスを引き出した。さらに、井戸選手は今年 9 年ぶり 200m で日本記録を更新し、世界選手権においても 14 年ぶりの準決勝進出という活躍をみせた。その井戸選手を日ごろから指導している指導者（専任コーチ）である。

また、永年に渡り日本女子短距離界の強化に携わり、世界・アジアで活躍する選手を継続的に育成している。女子選手に限らず、男子選手も指導し、日本トップレベルの選手を輩出、パラ陸上の指導者としても活躍しており、多くの選手を世界の舞台上で活躍する選手に育成している指導者である。

#### 【指導（サポート）した主な選手】

・松本 奈菜子	'25	第 26 回アジア陸上競技選手権大会	女子 400m	1 位
・松本 奈菜子	'24	アジア室内陸上競技選手権大会（テヘラン）		1 位
・佐々木 真菜	'25	世界パラ陸上競技選手権大会（ニューデリー）	T13 女子 400m	3 位
・佐々木 真菜	'24	第 17 回パラリンピック競技大会（2024/パリ）	T13 女子 400m	7 位
・佐々木 真菜	'23	アジアパラ競技会（杭州）	T13 女子 400m	1 位
・佐々木 真菜	'23	世界パラ陸上競技選手権大会（パリ）	T13 女子 400m	5 位

#### ●荒木 達雄（あらか たつお）氏 71歳（1954. 8. 1生）

（日本体操協会／日本体操協会国際事業委員長 アジア体操連合 理事）

大学での教育・研究と並行して、日本体操協会国際事業委員長、アジア体操連合（AGU）GfA 委員会委員長、国際体操連盟（FIG）GfA 委員会副委員長等を歴任し、体操の普及と指導者育成に関して長年の功績を有する。とりわけ、1978 年から多くの国での Gymnastics for All にて普及活動に尽力し、国際講習・交流事業を通じて子どもから高齢者までが体操に親しめる環境整備を継続的に推進してきた。現在までに海外出張 305 回・渡航国数 71 か国（2025 年 12 月現在）の国内外で活動を継続し、体操界の発展と生涯スポーツ振興に顕著な貢献をしていることから、その功績は顕著である。

#### ●前原 正浩（まえはら まさひろ）氏 72歳（1953. 11. 24生）

（日本卓球協会／日本卓球協会名誉副会長

JOC ナショナルコーチアカデミー・シニアアドバイザー）

1970 年代から 1980 年代にかけては日本代表選手として活躍し、1980 年代には日本代表コーチ兼選手を経て日本代表監督を務め、指導者として日本卓球界の発展に大きく貢献した。また、国内だ

けではなく 1982 年にインド、91 年にウガンダ、93 年にはパキスタンへ行き、それぞれの協会からの依頼により、各国の若手有望選手への指導を行っている。

その後、2001 年には文部科学省が定めたスポーツ競技団体における一貫指導システムおよび一貫指導カリキュラム（競技者育成プログラム）の策定と実施を主導し、選手とその指導者の意識改革を促した事により、現在の日本卓球における強化・育成システムの礎を築いた。このように、世界を目指した選手育成と指導者の意識改革を組織的な規模で、しかも継続的に図ってきた事例は、これまでにはない。さらに、2008 年からの JOC エリートアカデミー卓球競技参加には、構想段階から中心的役割を担った。

これらの取り組みは現在も継続しており、これまでの日本代表チーム及び多くのトップ選手の国際的な活躍に、明確に表れている。

【指導（サポート）した主な選手】

- ・水谷 隼/丹羽 孝希 '14 世界選手権東京大会 男子団体 3 位
- ・石川 佳純/石垣 優香 '14 世界選手権東京大会 女子団体 2 位
- ・福原 愛/平野 早矢香/石川 佳純  
'12 第 30 回オリンピック競技大会（2012/ロンドン）女子団体 2 位
- ・福原 愛/平野 早矢香/福岡 春奈  
'08 第 29 回オリンピック競技大会（2008/北京）女子団体 4 位
- ・松下 浩二/渋谷 浩/偉関 晴光/遊澤 亮/田崎 俊雄  
'00 世界選手権クアラルンプール大会 男子団体 3 位
- ・松下 浩二/渋谷 浩 '97 世界選手権マンチェスター大会 男子ダブルス 3 位
- ・石田 清美/星野 美香 '88 第 24 回オリンピック競技大会（1988/ソウル）女子ダブルス 4 位

●塚田 真希（つかだ まき）氏 44 歳（1982. 1. 5 生）

（全日本柔道連盟／女子代表監督）

2024 年パリオリンピック後、女性として初めて全日本女子監督に就任。就任後は長年続いていた担当コーチ制を廃止し、コーチ全員で代表選手を支える新たなサポート体制へ刷新するなど、抜本的な改革を推進した。この体制改革は選手の成長を促し、組織の連携を強化する大きな成果につながり、2025 年世界選手権では 金 3、銀 2、銅 2 の計 7 個のメダルを獲得する好成績を収めた。また、シニアコーチとして 2013 年から 2021 年まで長期にわたり日本代表選手の育成に尽力し、指導者としての豊富な経験と確かな実績を有している。長年にわたる選手強化への貢献と、監督就任後の改革および成果は、極めて高く評価されるべきものである。

【指導（サポート）した主な選手】

- ・阿部 詩 '25 ブダペスト世界柔道選手権大会 52kg 級 1 位
- ・嘉重 春樺 '25 ブダペスト世界柔道選手権大会 63kg 級 1 位
- ・田中 志歩 '25 ブダペスト世界柔道選手権大会 70kg 級 1 位
- ・濱田 尚里 '21 第 32 回オリンピック競技大会（2020/東京）78kg 級 1 位
- ・濱田 尚里 '18 バクー世界柔道選手権大会 78kg 級 1 位
- ・梅木 真美 '15 アスタナ世界柔道選手権大会 78kg 級 1 位

●大村 啓逸（おおむら けいつ）氏 74 歳（1951. 4. 1 生）

（宮城県スポーツ協会／剣道 JSP0 公認スポーツコーチングリーダー）

1994 年から 34 年にわたり地域に根ざした剣道指導に尽力し、田尻地域の青少年育成とスポーツ振興に多大な貢献をした。平成 4 年以降、宮城県中学校総合体育大会をはじめ、数多くの大会において、団体優勝や全国大会出場、個人優勝など、輝かしい実績を次々と挙げた。これらは単なる競技成績にとどまらず、地域から全国レベルの選手を多数輩出し、田尻地域の剣道レベルを飛躍的に高めたとと言える。

また、地域の指導体制の確立にも尽力し、月に一度の地域全体稽古会を立ち上げ、指導者間の連

携強化と子どもたちが互いに切磋琢磨できる環境づくりに取り組んだ。親の会との交流を重視し、家庭と指導現場が一体となって子どもを支える仕組みを築くなど、地域スポーツの持続的発展に資する活動を継続して実践している。

さらに、剣道指導にとどまらず、大崎市体育協会支部長として、また「田尻クロスカントリー大会」の実行委員長として、市民の健康増進とスポーツ普及にも尽力してきた。現在は大崎市部活動地域移行推進委員として、持続可能な地域部活動の構築にも力を注ぎ、次世代の育成環境づくりにも貢献している。

●内野 浩（うちの ひろし）氏 68歳（1958. 1. 19生）

（茨城県スポーツ協会／サッカー JSP0 公認サッカーコーチ1〔JFA 公認C級コーチ〕）

46年にわたり茨城県の高校サッカーの発展に尽力し、定年後も鹿島高等学校総監督として指導を続けてきた。これまで3校で指導に携わり、いずれの学校でも競技力を大きく向上させ、特に鹿島高校では全国大会3位に入る強豪校へと育て上げるなど、その指導力は際立っている。

国民スポーツ大会ではコーチ・監督として複数回チームを本大会へ導き、茨城県代表の競技力強化にも貢献した。さらに、創設30年を超える鹿嶋サッカーフェスティバルは、現在では全国から100チーム以上が参加する一大大会へ成長し、鹿島アントラーズ下部組織や地域校の飛躍の基盤となった。

また、教育現場においても、生徒に寄り添った指導で低迷していた学校を強豪校へと変革した。高校時代の教え子が社会人になってもサッカーを続けていることから、生涯スポーツの推進にも大きく寄与していると言える。部活動の地域移行にあたっては、中学生の受け皿としてフットボールクラブを設立し、代表として日々子どもたちと向き合っている。中学生選抜チームを海外大会で準優勝に導くなど、国際的な活動も展開している。

さらに、後進育成にも熱心で、茨城県高校体育連盟サッカー専門部委員長として若手指導者の育成と大会運営に尽力し、現在は鹿嶋市サッカー協会会長として地域スポーツの発展を牽引している。

●藤谷 博人（ふじや ひろと）氏 62歳（1963. 5. 21生）

（神奈川県スポーツ協会／スポーツ全般 JSP0 公認スポーツドクター）

30年以上にわたり神奈川県のスポーツ医・科学の発展を牽引している。

とりわけ国民体育大会（現 国民スポーツ大会）では18回にわたりチームドクターとして帯同し、早くから医師とトレーナーが連携する包括的メディカルサポート体制の確立に尽力してきた。これにより、同県選手団の安全性が大きく向上しただけでなく、各競技に所属するトレーナーがその知見を自チームへ持ち帰ることで、スポーツ現場全体の医・科学意識向上に寄与した。

また、同県スポーツ協会スポーツ医科学委員会委員長およびトレーナー部会部会長として、トレーナーへの医学的アプローチを推進し、資質向上に貢献した。特に研究テーマである頭部外傷・脳震盪の予防については、研究成果を基に啓発活動を行い、選手の安全確保に関わる方針決定にも大きく寄与した。さらに、整形外科の専門性にとどまらず、スポーツ栄養学・スポーツ心理学など多領域に精通し、スポーツ医・科学を総合的に普及させる重要性を訴えて実践してきた点は特筆すべきである。

このように研究者・教育者・整形外科医として全国的に優れた実績を持ちながら、拠点を神奈川県に置くことで地域医療や人材育成にも多大な影響を与えている。

●兼田 忠啓（かねだ ただひろ）氏 71歳（1955. 2. 23生）

（新潟県スポーツ協会／ソフトテニス JSP0 公認ソフトテニスコーチ2）

ソフトテニス競技において長年第一線で活躍し、選手・監督として30年にわたり指導に携わってきた。国民体育大会（現 国民スポーツ大会）ソフトテニス競技の監督就任後は、プレー内容のデータ化やトレーナー帯同など、当時のソフトテニス界では先駆的であったスポーツ科学的アプローチを積極的に導入し、チームの競技力向上に大きく貢献した。選手に指導員資格の取得を促すなど、

将来を見据えた育成にも力を注ぎ、教え子とその後の国民スポーツ大会の監督として活躍するなど、人材輩出にも大きく寄与している。

また、新潟県ソフトテニス連盟では理事や強化委員長などを歴任し、現在は副会長・強化総括責任者として組織運営と競技力強化を牽引している。地域でも行政や地元団体と連携し、普及活動と競技力向上の両面で精力的な取り組みを続けており、小・中学生のジュニア指導にも長年尽力してきた。現役選手も巻き込んだ育成体制を構築し、地域全体で普及・育成・強化が進む環境を整えたことは高く評価される。

さらに、「中学部活動地域移行」にも早期から理解を示し、中学校や顧問と綿密に連携しながら、生徒の心理的負担に配慮した円滑な移行を実現してきた。その成果として、地域クラブである胎内JSTC女子ソフトテニス部が全国中学校大会において団体3位という快挙を成し遂げ、地域移行の成功例として大きな注目を集めている。

●比嘉 敏彦（ひが としひこ）氏 54歳（1971. 10. 30生）

（沖縄県スポーツ協会／ウエイトリフティング JSP0 公認ウエイトリフティングコーチ4）

沖縄県内の複数の高校で25年以上にわたりウエイトリフティング指導に携わり、国内外で活躍する選手を多数育成してきた。同氏の指導の下、沖縄県立本部高校をはじめとする県内の高校から、全国大会やアジアユースゲームズに出場する選手を輩出し、世界ユース選手権・世界ジュニア選手権での入賞、全九州大会優勝など多くの成果を挙げた。特に複数の地元出身選手を日本代表に育て上げた実績は、沖縄県全体の競技力向上に大きく貢献している。

また、長年にわたり本部町の小・中・高校生から大学生までを継続的に指導し、競技者育成のみならず、青少年にスポーツの魅力を伝え、健全な心身の成長を促す活動を続けている。地域住民と一体となった激励会が開催されるほど、同氏の指導は地域に根差し、厚い信頼を得ている。

さらに、技術指導にとどまらず、「努力」「挑戦」「礼儀」の大切さを教え、選手の人格形成にも寄与している。国際大会に挑む選手には「世界で戦える力」の育成を目標に掲げ、競技人生の基盤を築く指導を実践している。「ウエイトリフティング王国」と呼ばれるほど競技が盛んな沖縄県において、比嘉氏は県勢を全国・世界レベルへ押し上げてきた中心的存在であり、その活動は県スポーツ文化の振興に直結している。

以上

※年齢は26年3月3日時点

（お問合せ先）

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局 藁澤・古川 TEL. 03（3233）7009  
ミズノ株式会社 コーポレートコミュニケーション室 木水 TEL. 03（3233）7037